

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	K.K	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は午前中のみで、全 5 クラスに分かれて行われた。日本人に加えて韓国、台湾、メキシコなど多国籍な生徒が集まる環境であった。

授業は 1 コマ目と 2 コマ目で講師および内容が異なっていた。

1 コマ目では、教科書の文章を読んだ上で互いの意見を交わすスタイルが中心となった。主に広告に関する文章とメキシコと日本の都市の違いについて書かれた文章の二種類を読んだ。また、文を出されてグループで文法の間違いを探すものや相手が説明している単語を当てるゲーム、洋楽の歌詞を並べるゲーム等を行った。毎日その日のできごと等について話す小さなアイスブレイクの英会話から教科書の複雑な内容のディスカッションに入り、英語を使ってコミュニケーションをとる機会がたくさんあった。課題としては、毎週新しく学んだ単語を 5 つ以上調べて例文を作る Vocabulary Journal や、広告をテーマに自説を述べる Podcast の制作が課された。また、最終課題として 3 人 1 組のグループで空想の便利アイテムというテーマでプレゼンを行った。毎週月曜には自分で集めた Vocabulary を使って文を作る課題や単元ごとの振り返りとして A4 一枚程度の長めのライティングも行った。接続詞等の文法の発展的な内容も習い、文法テストも実施された。

2 コマ目は「アートと建築」をテーマとした授業であった。カナダ国内のパブリックアートを実際に訪れて写真を撮影しプレゼンテーションを行ったり、関連語彙を英語で説明し合ったりと、実践的な課題に取り組んだ。アートや建築等の専門用語が多く、理解に苦しむ場面もあったが、複雑な英単語を簡単な文法と単語を使って言い換える練習を重ねるうちに、自分の中での理解が深まった。また、現地ニュースや TED Talks を活用したリスニングを行い、それに基づく意見交換も活発に行われた。リスニングはとても早く難解だったが、次第にメモ等を取る癖がつき、聞き取れるようになった。R と L、V と B の発音などの区別の練習も行い、英語耳を鍛えることができた。さらに、他国籍の留学生に話しかけてインタビューする課題もあり、自分からコミュニケーションをとるきっかけになった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業のなかでも、難しい単語を優しい単語で説明するアクティビティが自分の中でとても役に立ったと感じている。英語を英語で説明することで、日本語での直訳より正確なニュアンスをつかむことができ、何より自分で説明することによってとても定着した。この期間でたくさんの語彙に触れ、友達に説明することで知識を定着させることができたと思う。

また、文法用語（副詞や形容詞、関係代名詞等）に関してもすべて英語で説明されるため今まで日本語でしか文法を勉強してこなかった私にとって英語で話されると知らない単語が多く、とても戸惑った。

授業教材によってカナダの伝統的なアートについての理解を深めることができた。先住民の歴史や、先住民族のアートが利用された現代の商品まで、興味を持って学習することができた。

さらに、一つ上のクラスの生徒のプレゼンを聞き、自分たちの発表の際にも生かせるプレゼンの仕方を学ぶことができた。

また、自分で文を書いている時には気づかないが、友達の文を確認するときに、複数形や時制などの細かいミスが多く起きていることに気づけた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受けた後は、受ける前に比べて英語でコミュニケーションを取ることのハードルが下がった。話題がなければ他国籍の留学生に話かけるのはハードルが高いが、授業では内容について積極的に話けることができた。そのまま、休み時間や休日にも英語で談笑を楽しむきっかけになった。また、黙っていてもグループワークが進まない。つたない英語で単語しか思いつかなかったとしても、相手に自分の気持ちを伝えることで意思疎通ができ、課題を進めることができる。完璧な英語より伝えることが重要で、伝わって意思疎通ができたときにとても喜びを感じた。授業のリスニングがとても高い難易度でなかなか聞き取ることができなかったが、先生のアドバイスや友人とのディスカッションによってだんだん内容の解像度を上げることができ、最終的にリスニング能力を向上させることができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学経験を経て、今後もより自分の英語能力を伸ばしていけるように努力を続けたいと思った。今回の留学では自分の語彙力とリスニング能力に特に課題を感じた。語彙については授業で実践していた Vocabulary Journal を個人的にも続ける。リスニングに関してはネットにアップされている海外のニュース等を聞くことを習慣にし、実践的な英語に慣れていきたい。日本にいても留学生に積極的に話かけることや、英語の授業や P E センターの活用等によって英会話をする環境を整えることができる。また、資格試験等にチャレンジし、自分の能力を可視化すると主に、再度海外への渡航へチャレンジし、自分の能力を高めていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	R.U	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 7 月 6 日～ 2026 年 7 月 3 1 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

今回の留学では、文法、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの5つの分野を総合的に学ぶ授業が行われた。それぞれの技能をバランスよく伸ばすことを目的とした内容で、文法を学んだ後に会話練習やリーディングに取り組むなど、学習した内容を実践的な活動につなげる授業構成となっていた。また、学習内容の理解度を確認するため、定期的にミニテストが実施され、授業で扱った内容の定着を図る機会が設けられていた。授業は講義形式だけではなく、ペアワークやグループワークを中心とした参加型の活動が多く取り入れられていた。ペアで会話練習を行ったり、グループで意見交換をしたりする活動が多く、授業中は学生同士が英語でコミュニケーションを取りながら課題に取り組んだ。また、先生からの質問に答えたり、自分の考えを発表したりする機会も多く、授業全体を通して英語を使ってやり取りを行う時間が多く設けられていた。プレゼンテーションは、グループ発表と個人発表の両方が実施された。グループ発表では、「カナダの観光名所」と「カナダの英雄」をテーマに調査を行い、役割分担をしながら資料を作成し、英語で発表を行った。個人発表では、自分のホームタウンについて紹介し、地域の特徴や観光地、魅力などを英語で説明した。また、発表後にはクラスメイトや先生からの質問に答える時間も設けられていた。課題は毎日ではなかったが、授業内容の復習を目的とした語彙の確認やリーディングなどが出され、比較的短時間で取り組める内容が中心であった。また、授業ではグループ対抗のミニゲームや英語を使ったアクティビティが取り入れられることもあり、ゲーム形式で語彙や授業内容を確認する機会もあった。このように、講義だけでなく、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、課題、ゲーム形式の活動など、さまざまな学習方法を組み合わせながら英語を学ぶ授業が行われていた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

今回の授業を通して、英語の知識だけでなく、実際のコミュニケーションで英語を使うための力や、異なる文化についての知識を得ることができた。特に、知っている単語や表現を組み合わせながら、自分の伝えたいことを相手に伝えるという実践的な英語の使い方を学んだ。また、実際に海外の友達と英語で会話する中で、相手が使っている新しい単語や表現を知る機会もあり、教科書だけでは得られない語彙や表現を身に付けることができた。また、授業でカナダの観光名所や英雄について扱ったことで、カナダの文化や歴史についても知識を深めることができた。さらに、さまざまな国の学生と一緒に授業を受け、会話や意見交換をする中で、国によって文化や価値観、物事に対する考え方が異なることを知った。同じテーマについて話していても、自分とは異なる視点や意見があることを知ること、異文化について具体的に学ぶことができた。また、相手の文化的背景を考えながらコミュニケーションを取ることの重要性についても知ることができた。このように、今回の授業では英語の 5 技能に関する知識だけでなく、英語を実際に使って意思を伝えるための方法や、カナダをはじめとするさまざまな文化・価値観についての知識を得ることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語を話すことに対して不安があり、間違えることを恥ずかしく感じてしまうため、英語で積極的に話すことができなかった。特に、自分の英語が相手にきちんと伝わるのかという不安があり、話したいことがあっても発言をためらうことがあった。また、頭の中で正しい文章を考えてから話そうとすることが多く、会話の中ですぐに言葉が出てこないこともあった。しかし、授業を受け、実際に海外の友達と英語でコミュニケーションを取る中で、その気持ちは少しずつ変化した。完璧な英語でなくても、知っている単語や表現を使って伝えようとするだけで、相手と会話を続けることができると分かった。また、間違えることよりも、自分から伝えようとするのが大切だと感じるようになった。留学後は、英語を話すことへの抵抗感が以前よりも小さくなり、自分の英語でも相手とコミュニケーションを取ることができるという自信を持てるようになった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で得た英語力や異文化への理解を、今後の大学での学業に生かしていきたい。特に、国際関係や多文化共生について学ぶ際には、今回さまざまな国の学生と交流した経験を生かし、一つの視点だけでなく、多様な文化や価値観を踏まえて物事を考えることを意識したい。また、授業での発表、グループワークでは、留学中に身に付けた英語で自分の考えを伝える経験を生かし、積極的に発言していきたい。さらに、留学後も英語学習を継続し、語彙や文法の学習だけでなく、英語を実際に使う機会を増やすことで、今回身に付けた英語力を維持・向上させていきたい。留学で得た経験を一時的なものにせず、今後の学びにつなげていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.O	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2026 年 8 月 4 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は一日に2コマあり、クラスは同じで先生が変わった。2つの授業で共通していた授業のルールは、母国語を教室で使わないことである。このルールのおかげで、うまく表現できなくても、「とにかく英語で伝える努力をする」ことができるようになった。

1コマ目の授業では、グループワークやプレゼンテーションが多く、実際に英語を使ってコミュニケーションをとることが多かった。授業のトピックはカナダ人の有名人についてや環境問題、文化について扱うことが多かった。また、各トピックについて学ぶにあたり、新しく学んだ単語やイディオムがあった。各トピックについての授業が終わると、毎回そのトピックに出てきた単語やイディオムのテストがあった。筆記試験もあったが、主にグループで一人が一枚紙を引き、そこに書かれている単語やイディオムの意味を英語で伝え、他の人がその意味を持つ単語やイディオムを答えるというゲーム形式が多かった。グループの中で一番多く答えることができると先生からお菓子をもらうことができたため、モチベーションも高く、楽しく学ぶことができた。

2コマ目の授業では、英語で英語の文法を学び、その文法を使って、グループディスカッションやプレゼンテーションをすることが多かった。中学や高校で一通り勉強してきたが、英語で文法を学ぶことの難しさを感じた。また、発音についても詳しく教えてもらうことができた。"th"の発音や"r"と"l"の違い、リンキングするところや音が脱落するところなどを生徒が英語を話すたびに正しく直してもらえたため、発音の改善にもつながった。

課題はペアでプレゼンテーション準備やカナダ人へのインタビューなど、英語を話す機会が多かった。カナダ人へのインタビューでは、話すスピードが速いためうまく聞き取れないところもあり大変だったが、授業で学んだことを活かす場でもあったため、とても貴重な経験ができたし、自分の英語でもしっかり伝わるのだと自信を持つこともできた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を受けて、間違いがちな英語表現や冠詞の付け忘れなど、日本人同士や自分自身では気づきにくい間違いについても指摘してもらうことができ、次第に自分で気づいて修正することができるようになった。私は授業で、can と can't の聞き分けについて学んだことが印象に残っている。ネイティブの人は can't の "t" をあまり発音しないため、聞き分けが難しかった。例えば、「I can swim.」と「I can't swim.」では、音節 (syllables) の数にも違いがあることを教えてもらった。今まで私は、単語を一つ一つ聞き取ろうとしていたが、英語では音のつながりや発音の違いにも注目することが大切だと気づいた。これから英語を聞くときも、単語だけでなく、音全体に意識を向けたいと思った。

また、授業ではいろいろな国の文化も知ることができた。授業のトピックではカナダの文化について扱うことが多かったが、グループディスカッションでは生徒それぞれの国ではどうかという問いが毎回あったため、クラスメイトの出身国の文化についても知ることができた。日本の文化について質問されることもあったが、自分自身日本の文化について深く考えたことがあまりなかったため、日本の文化についても考える貴重な体験になった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語力に自信がなかったため、間違いを恐れて英語を話すことを恐れていたが、授業を受ける中で、自然と英語を使って、他国から来た留学生や先生と話すことが楽しくなり、最終的には他のクラスの留学生とも積極的に話しかけるようにしてたくさん友達をつくることができた。

留学に来て感じたことは、文法を間違えずに、正しく伝えるということよりも、間違えてもいいから英語を使って伝えようとするのが何よりも大切だということである。また、友達の発言もしっかり聞くことの大切さも感じた。先生は毎回生徒の間違いを訂正してくれるため、自分の発言以外にも友達の間違いを聞くことで、自分が使わなかった文法や単語、イディオムについてもたくさん学ぶことができた。

授業を受けて、英語を学ぶことの楽しさを改めて感じることもできた。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の経験が無駄にしないように、リスニングを毎日続けることや、英語を話す機会を設けること、英語で開講される講義を積極的に履修することなど、英語に触れる機会を減らさないようにしていきたい。帰国してから旅行に行った際に、外国人が駅で道に迷っていたのを見かけた。以前ならきっと見て見ぬふりをしていたと思うが、留学で少し自信を持つことができたため、自ら話しかけて外国人を助けることができた。この経験は自分自身とても嬉しかったため、これからは失敗を恐れずにさまざまなことに挑戦していきたいと思った。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	H.K	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	第2クォータープログラム		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は一限と二限に分けられ、それぞれ異なる先生のご指導を受けた。一限では主に文法や長文読解、リスニング、ライティング問題に取り組んだ。教科書が配布され、指定されたページの内容を一日かけて取り組んだ。これらの問題は授業の最後にテストとして課されることも多かった。ライティングのみ、翌日返却されたものの間違いを訂正して再提出する必要があった。加えて課題は教科書の文法問題で、翌日に答え合わせをグループで行うものだった。問題の答え合わせもグループで行うことが多く、人数は4人程度だった。二限では一限よりもペアワークが多い印象を受けた。文法問題ではなく、リスニングやコミュニケーション力を鍛える授業内容で、単語クイズなども行った。課題は現地のカナダ人にカナダの有名人について質問するものや、ペアでカナダの有名人についてのプレゼンを作成し、授業内で発表するといった内容であった。印象に残った授業は、ペアが文章を暗記して、もう片方のペアが相手の記憶をもとに文章を書くというものだ。リスニング力やシャドーイング力が高められる授業だった。また、二限に行われたゲームでは、紙に書かれた問題にスピーディーに答え、チャイムが鳴った時点で答えていた人が負けというもの印象的だった。問題に早く受け答えすることの難しさと重要性を学ぶことができた。ペアワークでは、こまめにペアが変わるため様々な国籍の方と話すことができた。課題の内容が早く終わった後に、英語で雑談やこの後の予定を語り合うことで、自分の考えを英語に置き換えて伝えることができ、楽しかった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの能力をバランスよく書くことができたと考える。リスニングは、授業中の先生や友達の英語を聞くことによって鍛えることができた。また、テスト形式の問題を解くにあたって、日本でのリスニング問題よりよりリアルな生活の中での会話が流れたり、スピードや強弱の変化があったりと実践的な問題だったと感じた。リーディングは、長文読解によって養うことができた。長文自体は長いものではなかったが、新出単語が多く用いられているため、単語を覚えながら問題に取り組むことができた。ライティングは、日々の課題によって鍛えることができた。その日に授業で学んだ文法を授業の最後のライティングで活用し、先生に採点されて間違えた内容を意識しながらもう一度書き直すことで、どのようなミスをしやすいかや、文の構成を見直すことができた。スピーキングは、授業内のグループワークやペアワークで養うことができた。クラスには様々な国籍の人がいるため、共通言語として英語がとても大切で、コミュニケーションをとるには欠かせないものであった。自分の考えや思いを英語にすることは難しかったが、自分の知識を使って会話することができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

英語の大切さを改めて知ることができた。様々な国籍の人がいる中で、英語はコミュニケーションに欠かせない手段であった。十分な英語能力があるわけではないが、自分の知識を活用して相手に伝えることの難しさと楽しさを学ぶことができた。授業を受ける前は、正しい英語で話さなければならないという完璧な英語を求めてしまっていた。しかし、完璧ではなくても相手に伝えることができるし、授業では先生がミスを一つひとつ指摘してくれるため、成長につながった。また、休み時間には、各国の言語や文化に触れることができた。特に韓国人の友達が多かったため、韓国料理について質問したり、韓国語を覚えたりと、異文化交流を体験できて貴重な時間を過ごすことができた。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通して、実践的な学びの大切さを学ぶことができた。実際にネイティブの英語を聞くことや、ネイティブと対話することで、普段頭の中で考えている英語がとっさに出てこないことや、人によって聞きやすさ、聞きにくさがあると感じた。今後は実際に自分で英語を話してみることや、間違いをそのままにするのではなく、最終的に完璧なフレーズに直すことを意識して学業を進めていきたいと考えている。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.S	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	B コース		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は習熟度に合わせて 5 段階にクラス分けされて行われました。そのためクラス内での極端なレベル差はなく、自分に合ったペースで受講することができました。授業は 2 コマで構成され、1 コマ目は教科書を用いた文法学習、2 コマ目は語彙の習得やディスカッションなどのスピーキングが中心でした。

前半の授業では、毎時間教科書の文法問題が課題として課されました。授業内では取り組んだ課題をグループで確認した上で、該当の文法を用いた会話練習を行いました。扱う文法は現在完了形や過去完了形、受動態、未来形など復習中心の内容でしたが、実際の会話では活用の誤りや主語と動詞の不一致が生じることも多くありました。先生がその都度誤りを指摘してくださったおかげで、正確な文法で文章を組み立てて話す力が培われました。また、学習した文法を活用する機会として、2～3 分程度のプレゼンテーション形式のスピーキングテストも 2 回実施されました。

後半の授業では教科書を使わず、先生が配布するプリント教材を基に進行しました。カナダの文化や環境問題についてグループでディスカッションをしたり、リーディングやリスニングの課題に取り組んだり、コミュニケーション重視の活動が多く盛り込まれていました。単語ゲームなどのアクティビティも豊富で、終始楽しみながら参加できました。特に印象深かったのは、現地の人へのインタビュー課題と、それに基づくペアでのプレゼンテーションです。カナダの有名人について学内で直接インタビューを行う課題は、授業外でネイティブと会話する貴重な機会となり、実践的なスピーキング力の向上につながりました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して最も得られた成果は、実践的な語彙力とイディオムの知識です。毎時間行われた単語ゲームでは、単語が書かれたカードを引き、その単語を英語だけで説明してグループ内で推測し合う形式が取られました。単語を日本語訳で丸暗記するのではなく、英語の概念のまま理解して他者に説明する過程を繰り返したことで、実際の会話でも活用できるレベルまで知識を定着させることができました。また、疑問に思った表現や単語をその場で先生に質問しやすい雰囲気が常に作られていたため、分からない単語をそのままにクラス全体でその都度学びを共有できました。

さらに、語彙力だけでなく、会話の中で正確な文法を意識して即座に文を組み立てる力も身につきました。従来はスムーズに話すことや単語を思い出すことに意識が偏り、動詞の時制や名詞の可算・不可算の扱いに誤りが生じがちでした。しかし、毎回のやり取りを通じてフィードバックを受けたことで、発話の際にも正しい文法構造を意識しながら論理的に文章を構築する習慣が定着したと感じています。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前後で最も大きく変化したのは、英語で話すことに対するハードルや恐怖心が薄れた点です。受講前は自分の語学力に自信がなく、「正しく発音できるか」「相手に意図が伝わるか」といった不安や躊躇がありました。しかし、多様なバックグラウンドを持つクラスメイトと積極的に対話を重ねる中で、完璧さを追求するよりも「間違いを恐れず伝えようとする姿勢」の大切さを学びました。

もちろん、実践の中で自分の思いをスムーズに言語化できなかったり、意図とは異なるニュアンスで伝わってしまったりするもどかしさを感じる場面も多くありました。しかし、その経験から「もっと表現の幅を広げたい」「自由に会話できる語彙力を身につけたい」という学習への強いモチベーションを持つことができるようになりました。授業を経て、英語学習に対する姿勢が受動的なものから能動的なものへと大きく変化したと感じています。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今後は、今回の留学で得た学びと挑戦する姿勢を活かし、さらに英語学習・自身の研究を深めていきたいと思っています。語学面では、単語や文法などの知識をインプットするだけでなく、大学の授業内や日常生活の中で積極的に英語を使う機会を作り、より実践的な英語や、英語でのコミュニケーション能力を磨いていきたいです。

また、今回の留学を通して培ったチャレンジ精神を今後の大学生活でも活かし、自身の専門分野や関心のあることについて、多角的な視点から能動的に学びを深めていきたいです。様々な課題に対して積極的に挑戦する姿勢を今後も大切にしていきます。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.S	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

初日にレベル分けのためのテストがあった。1つのお題についてエッセイを書く Writing と 3 人の学生と 1 人の先生で会話をする Speaking のテストがあり、Speaking では先生がもう 1 人教室にいて 2 人の先生に評価されていた。このテストによって、自分のレベルに合った授業を受けることができた。授業は 110 分 2 コマに分かれており、コマによって先生も内容も異なっていた。1 コマ目は Speaking に力を入れており、ディスカッションがメインで、プレゼンテーションやモノローグの発表を行った。事前に数回の授業でそのテーマに関連した内容を学んでいるため、それを活かして内容を考えることができた。今回は、健康や食事、カナダの有名人についてのテーマがあった。また、ボキャブラリーやリスニング、リーディングの小テストもあった。授業内容から出題されるので、授業に参加していれば容易に解くことができた。ボキャブラリーの学び方も、1 人が単語を英語で説明して他の生徒が当てるなど、英語を話すことを重視されていた。課題は週末にエッセイが出ることがある程度だった。2 コマ目は文法メインの授業だった。プログラム期間中教科書が貸し出され、その教科書に沿って毎日課題で予習し、授業が進むようになっていた。課題は毎日出るが、多くはなかった。授業内で行ったリスニングやリーディングの内容から、50-60words 程度のエッセイを書くことがあった。このエッセイを 1 度提出し、採点を受けてから満点になるまで提出し続けるのも課題になっていた。また、ボキャブラリーなどのテストもあり、一定の点数に達しなければそのテスト範囲の課題が増えることもあった。このコマでは、文法だけでなく、ネイティブの英語話者の抑揚を学ぶこともできた。先生の抑揚をリピートすることで、ネイティブの人が発音を省略している部分や繋げている部分を学んだ。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して得られたものは、スピーキング力である。日本にいと文法や単語メインでの学習になってしまうため、スピーキングメインの授業が貴重だったと思う。冠詞などの文法の指導を受けつつ、ネイティブらしい英語の抑揚を学べたのも楽しく、自由時間もそれを習得しようと友人と意識していた。先生が読んだ短文を文字を見ることなく繰り返す練習が授業内であり、これは注意深く英語を聞き、文法を意識するきっかけになったので自分が普段やりがちなミスに気づくのに役立ったと思う。グループの中で 1 人が単語を見てその単語の意味を英語で説明し、他の学生が単語を当てるクイズも良い勉強法だと思った。自分なりの言葉で意味を説明できるようになればより強く印象に残ると感じたので、勉強するのに取り入れたい。また、カナダだけでなく韓国や台湾、エクアドルなど出身の学生と話すことができ、それぞれの国の文化を知ったり特有の英語の抑揚を感じたりした。自信がなくても自分が知っている単語を使ってとにかく話してみれば、理解してもらえらることも改めて分かった。英語を話すことへの恐怖心が減ったのも良かった点だと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語力で自分の言いたいことを相手に正しく伝えられるのか不安で、間違った英語を話してしまうことを恐れていたため、英語を話すことに苦手意識があった。そのため、英語で話す場面では、頭の中で文章を考えているうちに会話のタイミングを逃してしまうことが多かった。しかし、授業の中で実際に英語を使って会話をする機会を重ねることで、完璧な英語でなくても、自分の知っている単語や表現を組み合わせれば相手に伝えることができると気づき、何よりもまず話してみることが重要だと思った。また、先生が自分が話した文をすぐに直してくれることで、授業を受けるにつれて少しずつ英語を話せるようになっていく感覚になって自信もつき、以前よりも積極的に英語を話せるようになった。例えば、国籍の違う友人という時に友達同士の会話が伝わっていなかった時、自分なりの言葉に変えて言いたいことを伝えられるか挑戦してみることができた。これまでよりも英文を考えるスピードが速くなったようにも感じる。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

留学に行くまでは英語を話すことに不安があったが、授業やカナダでの生活で不安が減り、会話できるのが楽しいと思えるようになった。カナダでの授業で、単語の勉強のしかたなど自分に合っていると思えるものも見つけたので、英語資格の勉強などで積極的に使っていきたい。また、海外に友人ができ現代ではメッセージのやり取りを続けることができるため、コミュニケーション手段として楽しみながら英語の学習に活かしていきたい。横浜市立大学での学びとしては、APE を履修したり留学生との交流に積極的に参加したりして、日本でも英語を使うことから逃げずに挑戦していきたいと思った。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	R.S	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	第2ウォータープログラム		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

現地では、最初に英語のレベル分けテストを受け、その結果に応じて一人ひとりの英語力に合ったクラスに分かれて授業を行った。自分のレベルに合った環境で学習することができたため、無理なく授業についていながら、自分に不足している英語力を伸ばすことができたと感じている。授業では、毎週異なるトピックが設定され、そのテーマに関連したリーディング、リスニング、文法、スピーキングなどを学んだ。それだけでなく、単語や文法といった日本の一般的な英語の授業で扱われる内容だけではなく、英語特有の細かな発音の仕方や、同じような意味を持つ表現のニュアンスの違い、実際の会話で使われる自然な表現などについても学ぶ機会が多くあった。これまで日本で英語を勉強してきた中ではあまり意識していなかった部分を知ることができ、より実践的な英語を学ぶことにつながったと思う。課題は基本的に毎日出されていたが、その量や内容は先生によって異なっていた。リーディングやライティングなどの課題を通して授業で学んだ内容を復習することができ、授業外でも英語に触れる時間を確保することができた。課題を含め、授業全体を通して一貫して基礎的な英語力を向上させることを目的としていたように感じる。また、授業はペアワークやグループワークを中心に進められることが多かった。そのため、単に英語を学ぶだけではなく、クラスメートと英語で意見を交換したり、協力して課題に取り組んだりする機会が多く、自然とクラスの人たちと仲を深めることができた。さらに、プレゼンテーションを行う機会も多く、準備や練習を通して授業外でもクラスメートとコミュニケーションを取る機会があった。こうした活動を通して、英語を勉強の一貫としてだけではなく、人とコミュニケーションを取るためのものとして実際に使う経験ができたことは、今回の留学における一番の経験だと感じた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、英語は単に文法や単語を正しく使うだけではなく、相手や状況に応じて表現を使い分けることが重要であると学んだ。特に、同じような意味を持つ表現でも、言葉の選び方によって相手に与える印象やニュアンスが異なることを知り、これまで以上に英語の表現を意識するようになった。また、発音についても、単語を一つひとつ正確に発音するだけではなく、文章の中で音がつながったり、強弱が変化したりすることを学び、実際の英語を聞く際の意識も変わった。さらに、リーディングやリスニング、スピーキングなどを別々の能力として捉えるのではなく、それぞれが関連し合っていることにも気づいた。授業で新しく学んだ表現を実際に会話やプレゼンテーションで使うことで、知識として覚えるだけでなく、自分の言葉として使えるようになることを実感した。また、グループワークやプレゼンテーションを通して、完璧な英語を話すことよりも、自分の伝えたいことを相手に伝えようとする姿勢が大切だと学んだ。分からない表現があっても、知っている単語や別の言い方を使って伝える経験を重ねたことで、英語で話すことへの抵抗感も以前より小さくなった。この経験から、英語力を伸ばすためには知識を増やすだけでなく、実際に使うことが重要だと学んだ。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語で授業を受けることに対して楽しみな気持ちがある一方で、自分の英語が通じるのか、授業についていけるのかという不安も大きかった。特に、英語を話すことにすこし怖さがあり、間違えたり相手に伝わるのかを気にしてしまったりすることも多かった。しかし、実際に授業を受けてみると、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、英語を実際に使う機会が多く、最初は緊張していたものの、自分の意見を伝えなければならない場面が多くあり徐々に英語を話すことへの抵抗感が少なくなっていった。また、分からない表現があっても、自分が知っている単語や別の表現を使って伝えることができることと分かり、重要なのは完璧な英語よりも相手に伝えようとする姿勢であるということにくづくことができた。授業を終えた後は、以前よりも英語を使うことに前向きになり、間違いを恐れるよりも、まずは自分から話してみることが大切だと感じるようになった。英語力だけでなく、英語でコミュニケーションを取ることにする自信も少し身についたと感じている。加えて、自分とは全く異なる背景を持っている人と言葉を交わすことができることに尊さを感じられるようになった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で身につけた英語力や、コミュニケーションを取ることへの自信を、今後の大学生活にも生かしていきたい。特に、英語の授業だけでなく、専門分野の文献や海外のニュースなどにも積極的に触れ、英語で情報を収集する力や英会話にも力を入れて継続して学習を行っていききたい。また、授業やゼミで自分の意見を発表する際にも、留学中に学んだまず伝えてみるという姿勢を大切にしていきたいと思う。TOEIC などの資格試験にも継続して取り組みながら、英語を学ぶだけでなく、国際的な課題について英語で考え、自分の意見を発信したり、他者の意見にも沢山触れて多角的な視野を身につけていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.N	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	B コース		
期 間	2026 年 8 月 4 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

プログラム初日にスピーキングとライティングのテストを受け、その結果をもとに五段階でクラス分けが行われた。自分のレベルに合っていないと感じた場合には、別のクラスへ移ることもできた。私のクラスは約 20 人で、日本人が最も多く、その他に 6 人ほどの他国籍の学生がいた。授業中は基本的に全員が英語でコミュニケーションを取った。

一時間目の授業では、文法を中心に学習した。文法事項を説明された後に問題を解くだけではなく、ミニゲームなども多く取り入れられており、楽しみながら学べる授業だった。また、一週間に一度程度、前週に学んだ新しい単語のテストも行われた。文法問題やリーディング、リスニングの問題を解いた後には、クラスメイト同士で答えを確認し、なぜその答えを選んだのかを英語で説明することもあった。

二時間目はスピーキングを中心とした授業だった。授業の中でスモールトークをすることが多く、その日の出来事などを英語で話した。ライティングでは、この留学を通して成し遂げたいことなどについて文章を書き、後日、先生から添削されたものが返却された。また、授業では二回のグループプレゼンテーションを行った。一回目は自分の好きなアーティストについて数分間発表するもので、成績にも反映された。グループ内には他国の学生もいたが、日本人が多いクラスだったため、他の学生も知っている日本人アーティストを選ぶ人が多かった。発表に向けて、授業外にも数回集まり、主に英語で話し合いながら準備と練習を行った。

二回目は、これまで学んだ文法事項について、クイズなどを取り入れながらペアで数人のクラスメイトに説明する形式だった。冠詞の使い分けなどを扱う人が多く、この発表についても授業外で集まって準備した。

文法学習そのものよりも、学んだ内容などについて英語で説明することが難しかった。文法的には高校内容程度であっても、なぜその答えを選んだのかを英語で説明するとなると思うように言葉が出てこず、苦戦した。一方で、こうした活動を繰り返すことで、知識として知っている英語を実際に使う経験を積むことができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、これまで学んできた英語の知識を、実際のコミュニケーションの中で使うことの難しさと重要性を学んだ。特に、文法問題の答えが分かっている、「なぜその答えになるのか」を英語で説明することは難しく、知識として理解していることと、それを英語で運用できることには差があると実感した。リーディングやリスニングの問題についても、答えを確認するだけでなく、その理由をクラスメイトに説明することで、自分の理解が曖昧な部分に気づくことができた。

また、ライティングの添削などを通して、自分が間違いやすい文法や表現を知ることができた。単に間違いを直してもらうだけではなく、答えとしては間違っていなくてもより自然な言い方を教えてもらう機会が多く、教科書で覚えた表現と実際の英語で使われる自然な表現の違いについても学ぶことができた。

さらに、プレゼンテーションや会話を通して、英語で自分の考えを伝える経験を積むことができた。完璧な文法や単語を考えてから話すのではなく、知っている表現を使いながらまず伝えてみることの大切さも学んだ。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

留学前は、英語を使って授業を受けることに対する不安が大きかった。周囲には英語を話せる人が多いように感じ、自分にはレベルが高すぎるクラスなのではないかと思うこともあった。しかし、クラスメイトと一緒に授業を受けたり、プレゼンテーションの準備をしたりするうちに、徐々に打ち解け、間違いを恐れずに話せるようになっていった。先生だけでなく、クラスメイトも分からないことを教えてくれたり、言いたいことを伝えようとしているときに助けてくれたりしたため、安心して英語を使うことができた。

また、間違えてしまっても大丈夫だという雰囲気があったことも大きかった。授業外でもクラスメイトと英語で雑談をするようになり、英語で話すことへの緊張や抵抗感が以前よりも小さくなった。現地の学生スタッフとも交流し、聞き返してくれたり、理解するために質問してくれたりしたため、完璧に話せなくてもコミュニケーションを続けることが大切だと感じるようになった。

英語面だけでなく、さまざまな人と関わる中で新しい価値観にも多く出会い、留学前よりも少し自信を持って、自分で考えて行動できるようになったと感じている。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で、英語を知っていることと実際に使えることには大きな違いがあると実感した。そのため、今後は大学で英語の講義を受講するなど、英語を実際に使う環境に自分から身を置いていきたい。また、授業で扱った文法や表現についても、単に問題を解いて終わりにするのではなく、実際の会話や文章の中で使うことを意識したい。

さらに、留学中にさまざまな価値観を持つ人と交流した経験を、今後の大学での学びにもつなげたい。自分と異なる考え方に触れたときにすぐに否定するのではなく、なぜそのような考え方をするのかを考える姿勢を大切にしながら過ごしていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.N	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 08 月 03 日～ 2026 年 08 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

留学中は、平日の 8 時 30 分から 12 時まで英語の授業を受けた。授業では、文法や単語の学習だけでなく、実際に英語を使って会話する活動が多く行われた。ペアやグループになり、与えられたテーマについてお互いの意見を話したり、相手に質問したりする活動が頻繁にあった。授業では一人で問題を解く時間よりも、他の学生と英語でやり取りする時間が多かったことが印象に残っている。また、カナダの有名人について調べ、英語でプレゼンテーションを行う授業もあった。自分で選んだ人物について情報を集め、それを英語でまとめてクラスの前で発表した。発表の準備では、調べた内容をそのまま英語にするのではなく、相手に伝わりやすいように内容を整理する必要があった。宿題では主に文法問題に取り組んだ。次の日の授業の最初にクラス全員で答え合わせを行い、間違えた問題や分からなかった部分について先生から説明を受けた。授業中の会話活動と文法問題を組み合わせることで、英語の知識を確認する時間も設けられていた。特に印象に残っているのは、実際に街へ出て、現地の人にインタビューをする課題である。授業で決められたテーマについて質問を考え、街の人に自分から声をかけて英語で質問した。教室の中で先生やクラスメートと話すのとは違い、相手や会話の流れを予測できないため、その場で相手の話を聞きながら対応する必要があった。このように、授業では文法の学習、ペアでの会話、プレゼンテーション、街でのインタビューなど、さまざまな方法で英語を使う機会が設けられていた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、英語の文法や単語などの知識だけでなく、実際に英語を使ってコミュニケーションをするための考え方を学ぶことができた。特に印象に残っているのは、分からない単語や表現があったとしても、そこで会話を止めるのではなく、自分が持っている単語や文法を使って、まずは相手に伝えようとしてみるのが大切だということである。留学前は、英語で話す際に正しい文法や適切な単語を話さなければいけないと考えてしまうことがあった。しかし、実際に授業で会話をしたり、現地の人と話したりする中で、完璧な英語でなくても、自分の知っている表現を組み合わせたり、別の簡単な言い方に変えたりすることで、ある程度自分の考えを伝えられることが分かった。また、相手の話を聞いて内容を理解し、それに対して質問したり、自分の意見を返したりすることも、英語でコミュニケーションを取る上で重要だと学んだ。これまで英語を勉強するときは、単語や文法を覚えることに意識が向きがちだったが、今回の授業を通して、それらの知識を実際の会話の中で使うことが重要だと分かった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語を話すことに対して恐怖感があり、間違った英語を話してしまうことを気にしていた。そのため、英語で話したいことがあっても、うまく言えそうにないときは話すことをためらってしまうことがあった。しかし、授業でペアやグループで会話をしたり、実際に街の人にインタビューをしたりする中で、英語を話すことへの恐怖感が少しずつなくなっていった。実際に英語を使ってみると、文法や発音を間違えても相手に伝わることもあり、完璧な英語でなくてもコミュニケーションを取ることができると分かった。また、自分の知っている単語や文法だけでも、工夫すればある程度自分の考えを伝えられることを経験した。その結果、留学後は英語を話すことに対する恐怖感が払拭され、以前よりも積極的に英語を使ってみようと思えるようになった。分からない表現があっても、最初から諦めるのではなく、自分が知っている言葉でまず伝えてみようという意識が変わったことが、留学前と比べて最も大きな変化だと感じている。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で得た経験を今後の英語学習に生かし、これからも英語力を向上させていきたい。そのために、英会話アプリなどを利用して、日常的に英語を話す練習を続けていきたい。また、東京など外国人が多くいる街にも実際に出かけ、外国人と交流しながら、実践的に英語を使ってみたい。留学中に身につけた「完璧な英語でなくても、まずは自分の言葉で伝えてみる」という意識を忘れず、間違いを恐れずに英語を使うことで、少しずつ会話力を高めていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.K	学部・学科	国際商学部 国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	B コース		
期 間	2026 年 7 月 5 日～ 2026 年 8 月 2 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業のクラスは6段階ほどのレベルに分かれ、1クラス15人程度であった。1日2回授業があり、それぞれ異なる先生が担当していた。1時間目は8時30分から10時20分まで、20分間の休憩を挟んで、10時40分から12時30分まで2時間目の授業があった。私はレベル1のクラスに所属していた。クラスの15人の生徒のうち、私とサウジアラビア人の男の子以外は、韓国人の生徒であった。カナダの文化等についての授業で、カナダやビクトリアの祝日とその過ごし方について学んだ際、話し合いをする中で韓国やサウジアラビアの祝日についても知ることができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

カナダに生息する様々な動物、気候や名所、伝統料理等、カナダについて学ぶことができた。英語の学習に関しては、時刻の表現のしかた等新たな学びもあり、受験の際使うような細かく間違いやすい文法なども復習できる良い機会であった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

受ける前は英語を話すことに慣れておらず、文法の間違い等を恐れて発言しづらかった。しかし授業を通して、自分の持つスキルのなかで表現することや、伝えようとする意志のほうが大事だと気づき、英語を話すことへのハードルが下がった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で、自分のポキャブラリーの乏しさを実感したため、より多くの英語表現を学んでいきたい。また、より活発に英語でコミュニケーションをとれるようになるために、リアクションのしかた等英会話の技術も上げていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	A.K	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture (SLC)		
期 間	2026 年 8 月 4 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

留学生クラスで授業を受けたため、クラスの約 8 割が日本人で、その他には韓国人、台湾人、中国人、ブラジル人などがいた。授業では、毎日異なる文法や表現を一つの単位として扱い、例えば過去形や現在完了形などについて学習した。授業の中心となっていたのは、学んだ文法や表現を実際の会話の中で使う練習である。先生から説明を受けた後、クラスメイトや先生と 1 対 1 で会話をする時間が多く、その際にはペアをこまめに入れ替えることで、さまざまな人と英語でコミュニケーションを取る機会が設けられていた。また、教科書を使った単語の学習や、事前に出されていた課題の答え合わせなども行った。他にも、週に 1 回程度簡単な発表やテストがあった。

特に印象に残ったのは、英語を話している際の間違いを先生がその場ですぐに指摘してくれたことである。例えば、可算名詞に「a」を付けることや、三人称単数現在形の「s」など、日本で英語を勉強しているときには理解していた基本的な文法でも、実際に会話をするときと忘れてしまうことが多かった。頭の中では文法を理解していても、相手と会話をしながら瞬時に英文を組み立てることは想像以上に難しく、自分が思っていた以上に初歩的な間違いをしていることに気づいた。

また、同じ内容を何度も別の相手に説明する機会があったため、一度間違えた表現を次の会話で意識して使い直すこともできた。単に文法の知識を覚えるだけではなく、実際に声に出して使うことで、自分がどの部分を苦手としているのかを具体的に把握できた点が、日本で受けていた英語の授業との大きな違いだと感じた。

授業初日に簡単なライティングとスピーキングのテストがあり、それに基づいて 5 段階のレベルに分かれたクラスに配属されるため、実力にあった授業が受けられると思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、英語の知識だけでなく、実際に英語を使ってコミュニケーションを取るために必要なことを学ぶことができた。特に印象に残っているのは、知らない英単語を日本語に訳して覚えるのではなく、英語で意味を説明してもらい、その単語を英語のまま理解する学習方法である。これまでの英単語学習では、日本語の意味と英単語を結び付けて覚えることが多かったため、最初は普段とは違う感覚があった。しかし、英語を英語のまま理解することで、実際の会話でも日本語に置き換える時間を減らして意味を理解できるようになると感じた。

また、先生がカナダ人だったため、カナダで使われている英語の表現や発音についても触れることができた。さらに、さまざまな国から来た学生と一緒に授業を受けたことで、英語には話す人の国や地域によって発音やアクセントの違いがあることも実感した。アジア圏の学生が話す英語は比較的聞き取りやすく感じた一方で、ブラジルなど南米出身の学生の英語は、発音やアクセントの違いから聞き取りにくいと感じることがあった。この経験から、英語を学ぶ際には自分が慣れている発音だけでなく、さまざまな英語を聞き取る力も必要だと学んだ。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

留学前は、英語を勉強する必要性は感じていたものの、英語を実際に使って人と話すことには少し苦手意識があった。特に、自分の英語が相手に通じなかったらどうしようという不安があり、間違えることを気にしてしまうこともあった。しかし、実際に授業で毎日英語を使って会話をする中で、その気持ちは少しずつ変化した。授業では文法の間違いを指摘されることも多かったが、間違えること自体が悪いのではなく、間違いを修正しながら話すことが英語を身につけるために重要だと感じるようになった。また、簡単な内容であっても、自分の英語が相手に伝わったときには、英語でコミュニケーションを取ることの楽しさも感じることもできた。

そのため、留学前よりも「もっと英語を勉強したい」「もっと英語を話せるようになりたい」という気持ちが強くなった。今回の経験を通して、英語を知識として勉強するだけでなく、実際に使うことの大切さを実感した。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で、英語の知識を身につけるだけでなく、実際に英語を使ってコミュニケーションを取る練習が重要だと感じた。今後は、これまで学習してきた文法や単語を忘れないように復習するとともに、英語を話す機会をできるだけ増やしていきたい。特に、授業中に間違えることが多かった冠詞や三単現の「s」などの基本的な文法については、知識として覚えているだけでなく、会話の中でも自然に使えるようにしたい。また、今回さまざまな国の学生と話した経験を生かし、特定の国の英語だけでなく、異なる発音やアクセントの英語にも慣れていきたい。大学での英語学習にも積極的に取り組み、今回の留学で得た、英語を実際に使うという意識を今後の学業につなげていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	H.S	学部・学科	国際商学部国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2026 年 8 月 4 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は午前中に 2 コマあり、それぞれ異なる先生が担当していた。初日のレベル分けテスト(ライティング・グループでのスピーキング)で、ちょうど真ん中のレベルに配属された。授業では、ゲーム・音楽・家・ショッピングなど身近なトピックを扱った。1 限はテキストを使用し、4 技能だけでなく文法も重点的に学んだ。2 限の授業では、プレゼンやポッドキャストなどスピーキングが重視されていた。また、担当の先生より、前置詞が上手く使えていない人が多いことから前置詞についても学んだ。レベルによって取り組む内容は全然違っていたように感じる。宿題は、他のレベルのクラスと比べると比較的少なかった。週末には必ず課題が出されたが、平日はプレゼンテーションやポッドキャストの準備があったため、先生が配慮してくださっていた。1 限では単語や文法を確認するプリントが 1 枚出され、2 限では時々リスニングの課題が出される程度であった。私のレベルでは特にスピーキングが重視されており、授業の始めにはディスカッションや前日に何をしたのか話す時間が設けられていた。1 限では毎回グループ活動があり、演習問題の答えを確認したり、ホワイトボードに回答を書いたりした。2 限のグループプレゼンテーションでは、準備のために授業外でも集まり、夜に寮のラウンジで話し合いながら発表を完成させた。スクリプトを見ずに発表することは大変だったが、文章を暗記するのではなく、要点を覚えて自分の言葉で話すという貴重な経験になった。また、街中で現地の人にインタビューするという実践的な課題もあった。成績評価に関わる試験としては、リスニング・リーディング・単語テストが定期的に行われた。どちらもしっかりと授業を受けて宿題に取り組んでいれば得点できる内容であった。また、2 限ではグループプレゼンテーションとポッドキャストが主な評価対象であった。ポッドキャストでは、くじ引きで決めたクラスメイトの録音をその場で聞き、要約を書くというリスニングの課題も与えられた。トピックが授業で扱った音楽に関するものだったため比較的わかりやすく、楽しみながら取り組むことができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

高校生以来、改めて文法を学ぶことができた。英語で学ぶのは初めてだったため、過去形・過去分詞などの文法用語も英語で説明されることに難しさを感じた。動名詞など特定の文法しか学んでいないが、1つ1つの文法に対して何回も授業で扱ったり演習をしたりしたため、日本で学んでいた頃と比べてしっかり身についたと感じる。特に2限では、英語の基礎である a/an と the の使い分けについて1ヶ月間継続して学習した。これまで英語を話す際にはあまり意識せず、感覚的に使っていた部分があったため、自分の英語を見直す良い機会となった。最終週には、1人ずつ a/an と the の使い分けについてクイズを交えたプレゼンを行い、お互いに教え合うことでより理解を深められた。また、カナダではポッドキャストを聞くことが日常的であると知り、これまであまり触れたことのなかったポッドキャストを初めて聞く機会にもなった。スピーキング面では、相槌や日常的な表現の種類が増えたことも大きな学びである。教科書にはあまり載っていない“My bad”や“Take your time”などの口語表現を知り、授業外で英語を話す際にも実際に使うことができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

1番はスピーキングに対する気持ちが変わったと感じる。日本ではあまり英語を話す機会がなかったため、出発前は自分がどの程度英語で意思疎通できるのか不安を感じており、初回授業でも他のクラスメイトが積極的に話しているのを見てとても不安になった。しかし、授業では常に話さなければいけない環境に置かれていたことや、クラスメイトが全員優しくかったため、次第に自分からも話せるようになっていった。先生からも、間違えてもいいから発言する・あなたの間違えからクラスメイトも学んでいるとおっしゃっていただいた。特に、他国籍のクラスメイトともコミュニケーションが取れたことが何よりも嬉しかった。お互い完璧に話せるわけではないため、伝わらないときはより簡単な説明を入れながら話すなど工夫した。英語で話すことへの抵抗が少なくなり、CAと呼ばれる学生スタッフとも積極的に会話し、仲良くなることができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

この1ヶ月で向上したスピーキング力を落とさないようにしたい。そのため、コミュニケーションアワーに参加し、積極的に英語で話す機会を作っていきたい。また、生活面では寮生活で初めての1人暮らしであった。また、短時間でも英語を毎日学習する習慣はなくさないようにしたい。先生からアドバイスを受け、現地でノートを買って授業で分からなかった単語をメモし、授業後に日本語の意味を調べるということをしていった。この学習方法も継続していきたい。

さらに、寮生活を通して初めて一人で生活する経験もした。授業が8時30分から始まるため、自分で時間を管理し、早起きをする健康的な生活を送ることができた。この経験を今後の大学生活にも生かし、学業と生活の両面でより自立していきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	H.N	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2026 年 7 月 4 日～ 2026 年 7 月 31 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は午前中のみで、1 日 2 コマ、それぞれ異なる先生による授業を受講した。初日にスピーキングとライティングのテストを受け、その結果に基づいてクラス分けが行われるため、自分の英語力に合った難易度の授業を受けることができた。

授業では、スピーキングやライティングを中心に、文法や語彙についても実践的に学んだ。特に品詞について扱う授業が多く、中でも形容詞の語彙を増やす学習が多かった。新しい単語を覚えるだけでなく、その単語を使って自分の考えや経験を説明したり、グループ内で単語の意味を英語で説明して他の学生に当ててもらったりする活動もあった。文法についてもそれほど難度なものではなかったが、文法自体というよりも、クラスメイトと同じ問題について考え意見交換する際になぜこう考えるのか、を説明しなくてはならないため、英語で理論的に説明する力が必要とされた。

スピーキングでは、複数人のグループでテーマについて話し合ったり、生徒同士で一对一になって会話したりする活動が多く、実際に英語を使って意見を交換する機会が豊富にあった。ライティングでは、時間内に指定されたテーマに沿ってエッセイを書き、先生から添削を受けることで、英文の構成や表現を学んだ。

また、1 限・2 限のどちらの授業でも、スライドを作成してプレゼンテーションを行う活動があった。2～3 人のグループで協力して発表する場合と、一人で発表する場合があり、テーマはカナダの文化、自分の国の文化、自分自身の経験など様々であった。発表では、テーマについて調べた内容や自分の考えを英語でまとめ、作成したスライドを使用してクラス内で発表した。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、英語の語彙や文法に関する知識だけでなく、それらを実際のコミュニケーションの中で活用する力を身につけることができた。特に、形容詞を中心とした語彙を学ぶ機会が多く、自分の感情や物事の特徴などを具体的に表現するための語彙が増えた。また、単語の意味を英語で説明する活動を通して、知らない単語があっても別の表現に言い換えて説明する力も身についた。

文法については、基本的な文法事項を確認するとともに、それを使って自分の意見や考え、その理由を英語で説明する活動が多かった。そのため、正しい英文を作るだけでなく、自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることを意識するようになった。

さらに、現地で実際に英語を使って生活したことで、授業で学んだ知識を実際の会話と結びつけることができた。日常会話の中で、現地の人や他の留学生が繰り返し使う表現に触れることで、「このような場面ではこの表現を使うのだ」と具体的に理解できるようになった。また、自分自身が会話をする中でも、「こういうことを言いたい」という場面が多くあり、それをきっかけに必要な単語や表現を調べることもあった。このように、授業と日常生活の両方を通して、英語を知識として学ぶだけでなく、実際に使うための表現を身につけることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語で自分の考えを十分に伝えられるかという不安があり、間違った英語を使うことへの抵抗もあった。そのため、英語を話す際には正しく話さなければならないという意識が強く、言いたいことが英語で出てこないと会話を続けることが難しいと感じていた。

しかし、授業で他の学生と英語で意見を交換したり、プレゼンテーションを行ったりする中で、完璧な英語でなくても、自分の知っている表現を使って伝えることが大切だと考えるようになった。特に、言いたい単語が分からない場合でも、別の表現に言い換えたり、簡単な言葉を組み合わせたりすることで相手に伝えられることを経験したことで、英語を話すことへの抵抗感が小さくなった。また、日常生活でも英語を使う環境にいたことで、間違いを恐れるよりも、まず自分から話してみようという気持ちが強くなった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で身につけた、英語で自分の考えを伝える力を今後の学業にも生かしていきたい。
留学中は、言いたいことをすぐに英語で表現できない場合でも、別の表現に言い換えることで伝えることができたため、今後も間違いを恐れず、まず自分から英語を使うことを意識したい。また、留学中に不足していると感じた語彙や表現については、授業や大学での英語学習を通して継続的に増やしていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	Y.N	学部・学科	データサイエンス学部・データサイエンス学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	B コース		
期 間	2026 年 8 月 4 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、1 限が 8 時 30 分から 10 時 20 分まで、2 限が 10 時 40 分から 12 時 30 分までの 2 コマで、2 人の先生が担当する形で行われ、基本的に午前中で終了しました。クラスは、初日に実施されるライティングとスピーキングの英語テストの結果をもとに、ある程度適したレベルごとに分けられました。また、自分の英語力に対してクラスのレベルが合っていないと感じた場合には、レベル変更を申請することもできました。授業は、発言や質問がしやすい雰囲気、自分から積極的に参加することが求められていました。その一方で、分からないことがあった際に自分から質問しなければ、授業についていくことが難しくなる場面もありました。1 限の授業では、主にリスニング、文法、発音などを学びました。どの内容も、楽しみながら取り組めるような工夫がされており、ペアやグループでのディスカッション、ゲームなどを中心に授業が進められました。そのため、朝一番の授業でも楽しみながら積極的に参加することができました。2 限の授業では、ジェスチャーゲームをしたり、実際に外へ出てクラスメイトと英語で話したり、音楽を聴いたり、自分の国で有名な音楽についてプレゼンテーションを行ったりするなど、よりアクティブな活動が多く取り入れられていました。課題についても、街中の人に英語でインタビューをしたり、他の国の学生に文化について質問したりするなど、机に座って取り組むものよりも、実際に行動しながら英語を使うものが多く、楽しみながら学ぶことができました。特に印象に残っているのは、外で英語を使ってディスカッションを行った授業です。クラス全員で外のベンチに座り、お互いに自由に話したいことについて英語で話し合いました。カナダの涼しく晴れた中庭で、相手の国の中学校や高校がどのような環境だったのか、自分自身の経験や境遇などについて話し合うことで、リラックスした雰囲気の中でクラスメイトのことを深く知ることができました。このような授業は日本では経験したことがなく、英語を学ぶだけでなく、異なる文化や価値観を持つ人たちと交流する貴重な機会にもなりました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を受ける中で、英語の知識だけでなく、実際のコミュニケーションで必要となるさまざまな力を身につけることができました。特に、リスニングや文法、発音などの基礎的な英語力を改めて学ぶことで、自分がこれまで曖昧に理解していた部分を確認することができました。また、ペアやグループでのディスカッションを通して、自分の考えを英語で伝える力や、相手の話を聞いて内容を理解する力も身についたと感じています。特に大きな学びだったのは、間違いを恐れずに英語を使ってコミュニケーションを取ることの重要性です。授業では、自分から発言したり質問したりすることが求められるため、最初は間違えることに不安を感じることもありました。しかし、積極的に英語を使っていくうちに、完璧な英語でなくても、自分の伝えたいことを相手に伝えようとする姿勢が重要だと分かりました。さらに、他国の学生との交流を通して、英語だけでなく、それぞれの国の文化や学校生活、価値観についても知ることができました。同じ年代でも育った環境によって考え方や経験が大きく異なることを実感し、異文化を理解するためには、相手の話を聞き、自分との違いを受け入れることが大切だと学びました。今回の授業を通して、英語力だけでなく、積極的にコミュニケーションを取る姿勢や異文化を理解する力も身につけることができました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、約 1 か月間海外で生活することや、英語を使って授業を受けることに対して、不安や緊張を感じていました。特に、自分の英語が相手にきちんと伝わるのか、授業についていくことができるのかという心配があり、英語を話すことに少し抵抗もありました。しかし、実際に授業を受けてみると、間違いを恐れずに積極的に英語を使うことが大切だと分かり、少しずつ英語を話すことへの抵抗感がなくなっていきました。授業では、分からないことを質問したり、自分の意見を伝えたりする機会が多く、最初は緊張していたものの、回数を重ねるにつれて自然に発言できるようになりました。また、英語が完璧でなくても、ジェスチャーや簡単な単語を使いながら相手に伝えようとするだけで、十分にコミュニケーションを取れることも実感しました。授業を受けた後は、以前よりも英語を使うことに自信がつき、間違えることを過度に恐れなくなりました。また、英語を学ぶことは単に文法や単語を覚えるだけでなく、実際に人と交流しながら使うことで身につくものだと感じました。今後も今回の経験を生かし、積極的に英語を使う機会を増やしていきたいと思います。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で、自分の英語力はまだ海外の人と十分にコミュニケーションを取るには足りないと感じました。そのため、今後は授業で英語を学ぶだけでなく、海外の人と交流する機会を積極的に作り、楽しみながら英語で会話できる力を身につけたいです。また、留学中に英語の文章を読む際に、内容を理解するまでに時間がかかることが多く、自分が英語の読解を苦手としていることも改めて実感しました。今後の学業では、英語の授業や資格試験の勉強を通して、単語や文法の知識を増やすだけでなく、英文を読む習慣を身につけ、読解力の向上にも取り組みたいです。今回の経験を一時的なものにせず、今後の大学での学習や将来の仕事にも生かしていきたいです。